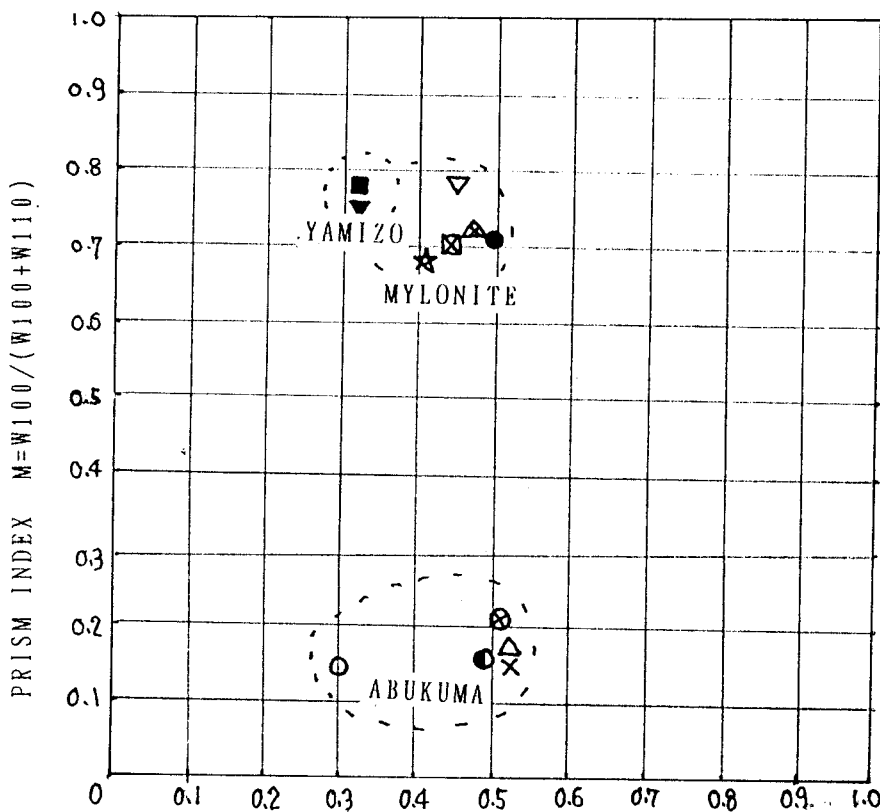
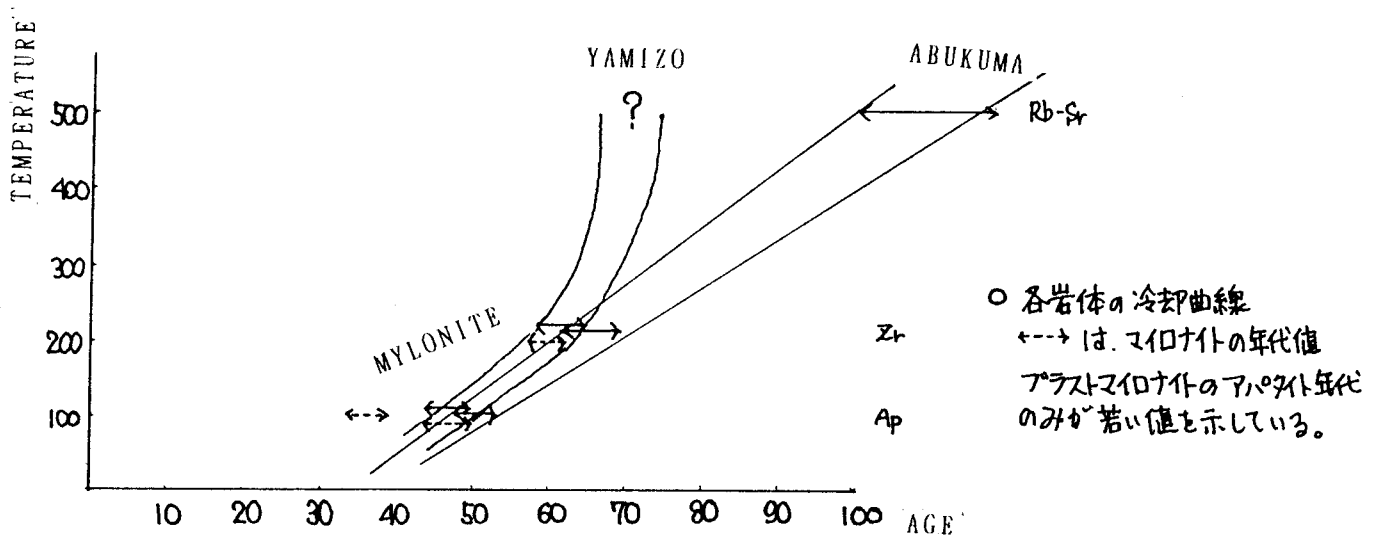


棚倉破碎帯には、著しくマイロナイト化した花崗岩類が分布しています。破碎帯の東側には、阿武隈型花崗岩類が広大に分布し、西側には、八溝型花崗岩類及び八溝帯の堆積岩類が分布しています。棚倉破碎帯は、ジュラ紀から白亜紀におけるトランスフォーム断層として形成されたとされていますが、詳しい活動時期については、未だに不明であります。今回福島県棚倉地域において、破碎帯の花崗質マイロナイト及び東西両側の花崗岩類のジルコン、アパタイトのF.T年代を算出し、またジルコンの形状分類を行いました。自発トラックは4π面で計数し、誘発トラックは外部ディテクター上で計数しました。



「情報地質」vol.13参照
 林先生は「岩鉱」に投稿中です。
 ○ 大田・林(1988)による
 ジルコンの形状分類結果、
 30粒の平均をひとつの印で
 表している。

大四、林(1988)によるジルコン形状分類の結果、破碎帯の花崗質マイロナイト(小爪岩体、上手沢岩体、八槻岩体、東館岩体)は、八溝型花崗岩類に対比することができる。つまり破碎体の花崗質マイロナイトは、八溝型花崗岩類がマイロナイト化作用を被ったものとして解釈される。よってマイロナイト化作用(脆性的な圧砕)は、八溝型花崗岩類の貫入時期(60~70Ma)以降までつづいていたといえる。最も強度の圧砕を被ったブラストマイロナイト(小爪岩体、上手沢岩体)のアパタイト年代は35~37Maと若い値であることから、マイロナイト化作用は35~37Ma頃まで続いていた可能性が極めて高い。

なお、計数は、ニコン、ラホ7μt × 1000 oil です。

RT-3のZrのトラック密度は、 $8.96 \times 10^4 / \text{cm}^2$ 。

ゼータ法は使用しませんでした。

なお、FCTのジルコン、アパタイトの年代は、それぞれ $26.62 \pm 1.26 \text{Ma}$ 、 $27.75 \pm 1.68 \text{Ma}$ という結果です。

エッチング条件は、ジルコンは NaOH-KOH 蒸餾液 230°C 16h ~ 26h

アパタイトは 7% 硝酸 25°C 一律に 45秒 です。

照射に際しては、武蔵工大の本多先生に大変お世話になりました。

また、大の林先生、渡辺先生には、いろいろと指導していただきました。

本当にありがとうございました。

めたくしごとですが、4月から、新潟大学の博士課程に進学することになりました。(指導教官は島津先生です)

フュージョントラック研究会の皆様方、今後とも御指導のほど よろしくお願ひいたします。